

献血で支えられている 命があります

▶ 2月は「献血推進月間」 ◀

●冬は血液が不足する

血液を人工的につくりだすことはできません。輸血用の血液はすべて献血によってまかなわれています。しかし、増加する血液需要に対し、献血者の数は減少しています。特に冬は、昼間の時間が短いために、午後の献血者が少なくなり例年血液が不足しがちです。輸血用血液は、毎月一定の量が必要で、常に新しい血液を確保しなければなりません。多くの方々の善意が血液の安定供給を支えています。

います。

●若い世代の協力が不可欠

献血者の約90%が16歳～49歳の青壮年層、それに対して輸血用血液の約80%が50歳以上の方に使われます。社会の少子・高齢化は今後もさらに進みます。輸血

を担う若い世代は減少し輸血用の血液はますます不足すると予測されます。

自らの血液を分け与えるボランティアともいえる献血。一人でも多くの方にご理解とご協力をお願いします。

日時 2月25日(水)
○午前10時～11時45分
○午後1時～3時
場所 保健センター
問合せ 保健衛生課衛生係
☎1158



乳幼児の医療費が 助成されます

乳児が医療機関に入院や通院をした場合、及び1歳から小学校就学前の幼児が継続して7日以上入院した場合に、医療費が助成されます。

手続きは保健衛生課に医療費の領収書と保険証・印鑑を持参してください。

問合せ 保健衛生課衛生係

☎1158

犬の正しい 飼い方・ しつけ方



日時 3月4日(水)
午後1時30分から
場所 八日市場市民ふれあいセンター(市役所隣)
内容 犬の正しい飼い方・しつけ方・健康管理についての講習と実演
対象者 町内に在住の方
募集人数 60人
費用 200円(テキスト代)
申込み 保健衛生課環境係 ☎1158



鶯や障子あくれば東山

夏目漱石
春の朝でしょうか。その情景が目には浮かぶような句です。

でも最近、湯の宿などでウグイスの声が目覚め、窓を開けても姿はなく、宿の建物の中のBGM(バックグラウンドミュージック)だったなんていうこともありま

す。ご存じのように、ウグイスは日本人に最も親しまれている鳥の一つです。それだけに、いろいろな名があります。春鳥、春告鳥、匂い鳥、歌詠み鳥、花見鳥など、どれも美しい名です。昔はウグイス合わせなどといって、ウグイスの声を競う行事があったようです。

ウグイス

種で、冬は平地に下り、夏は山地の低木林などに移ります。春の初めに鳴き始めますが、最初はささ鳴きといって、「チャッ、チャッ」と鳴き、やがて「ホーホケキョ、ケキョ、ケキョ」と上手に鳴きます。これをウグイスの谷渡りといえます。

暖かい地方では、そろそろ梅の開花やウグイスの初鳴きが待たれる季節になりました。しかし、まだまだ寒い日が当分続きます。健康には十分注意しましょう。

二月一～七日は「成人病予防週間」です。がん、心臓病、脳卒中などいわゆる三大成人病による死亡者は、死亡総数の約六割を占めています。定期的な健康診断を受けることが大切です。

ウグイスは、日本各地で見ることが出来ます。漂鳥(季節によって狭い地域を移動する鳥)の一

